

# 拓け！

【校長室だより】No.4  
平成30年11月1日



## どんな秋にしますか？

今年の秋は台風に始まりました。9月は2つの大型台風が日本各地に大きな被害をもたらしました。室戸市も越波や暴風雨等で大きな被害を受けるひと月となりました。災害に遭った方々に心からお見舞い申し上げます。



さて、2学期スタートからはや2ヶ月が経ち、カレンダーは後2枚を残すのみとなりました。子供たちは市展や読書感想文、市陸上交歓会への参加等で大忙しの秋でした。朝夕少しずつ気温も低くなり、学習や運動に最適の季節です。過ごしやすくなってきたものの、昼間は汗ばむこともあり、気候が定まらず体調管理が難しい今日この頃です。体調を整え、しっかりと学び、遊び、この季節を楽しみたいものです。

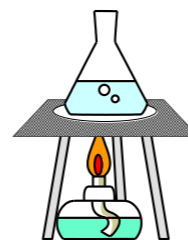
## 6年生：理科授業

10月19日、高知大学 楠瀬弘哲教授による示範授業が行われました。この授業は、本校の西智也教諭が高知CST（高知大学と連携して勤務校や近隣小中学校において基礎力向上を重視した理科教育・実験・実習についての指導助言を行い、地域の理科教育の中核的な役割を担う）であるというご縁から生まれました。その活動の一環に、高知大学の楠瀬先生が県内校で理科授業を行ってくださるということがあり、本校6年生が希望し実現しました。

小学校段階で子供たちを理科好きにし、理科に対する知的興味・関心を育み、科学的な思考力や表現力を育て、中学校段階へと繋いでいくことが大切だといわれています。子供たちの目が輝いた一時間でした。紹介します。

内容：「水溶液の性質～塩酸に溶けたアルミニウム～」  
授業のポイント

- ①溶けた物は水溶液の中に保存されているという考え方ができること
- ②他者の考えを考えることができること（特に、出てきた物がアルミニウムかどうかについて）
- ③具体と抽象を区別すること



前の時間に塩酸にアルミニウムと鉄釘を入れ、それぞれ溶かした物を準備しています。

(T：楠瀬先生 C：子供)

T：塩酸に溶けたアルミニウムはどうなったと思う？

C：なくなった！ C：溶けた！ C：見えなくなった！

T：事実はどれだ？ C：… C：あっ！見えなくなった！ C：でも…。

T：溶けて見えなくなった、でも あるんじゃないかってこと？ C：そう！

事実は何かということをしかりと考えました。

T：もし、アルミニウムがあるとすれば、どうやったらあるってことが分かる？

C：溶けた液を熱して跡が残ったら…。

T：どうして熱するの？

C：だって、前に食塩を溶かした時も溶けた液を熱したら、後に食塩が残ったから。

T：アルミニウムが出てくるはず？ C：そう！

T：何も出てこなかったらどうする？ C：う～ん。

T：その時はまた考えよう。

T：この時の実験のこつは何だ？ C：…。

T：余熱を利用するんだ。 C：ああ～。

今までの学習を生かしています。



この後、こまごめピペットの使い方等を少し練習し、実験に入りました。

T：熱した跡はどう？ C：白い物が残った。 C：白い何か。 C：白い粉のような物。

T：それは何か？ C：アルミニウム！ C：アルミニウム？

T：出てきた物がアルミニウムかどうかどうやって調べる？

言葉にこだわります。

C：もう一度塩酸を入れてみて、泡を出して溶けたらアルミニウムって言える。

アルミニウムならこうなる、アルミニウムではなかったらこうなるはずという結果に予想を伴った方法を話し合いました。この後、実験の結果を整理し、考察しました。課題に対応させた結論を導くことをねらいとしたまとめがなされました。

楠瀬先生の的確な問いかけ、スムーズな流れ、言葉にこだわり根拠を明らかにする授業は、教師にとって大きな学びとなりました。多面的に調べる活動を通して、それらの性質や働きについて理解し、観察や実験の技能を身に付け、より妥当な考えをつくりだす力や自ら問題解決しようとする態度を身に付けさせる指導でした。

また、子供たちの反応も素晴らしいと感じました。5年生の時に学んだことを生かしたり、言葉のもつ意味に着目して仮説を立てたりしながら思考することができていました。

子供たちは理科の実験が大好きです。子供たちの考える力をしっかりと伸ばしていけるよう今回の授業を生かしたいと思います。